

# 営農だより

緑化期間以降  
ハウス内の換気を  
徹底し徒長苗に  
させない!!



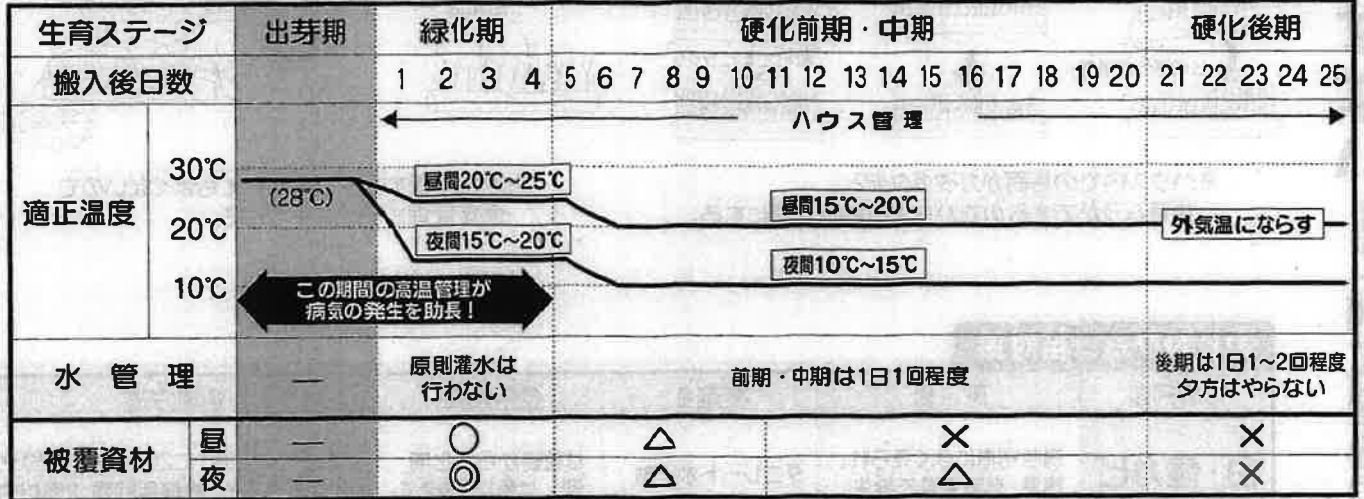
## ～10の推進技術・6つの1ヶ月対策～

(営農ブックP15,16参照)

### 4月のポイント ●育苗日数は1ヶ月以内

### ハウス管理

☆近年、緑化期間中のハウスの換気不足、高温管理 (26℃以上) によって病気が発生しています。



※被覆資材を取るタイミングは苗丈で判断しましょう ◎被覆資材等の2枚がけ ○被覆資材が必要 △低温時のみ被覆 ×被覆資材不要

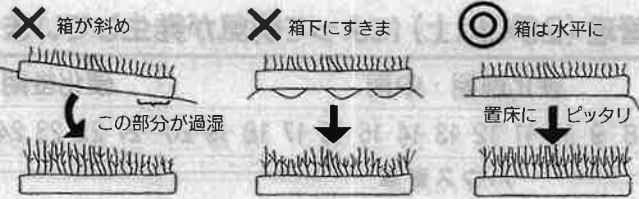
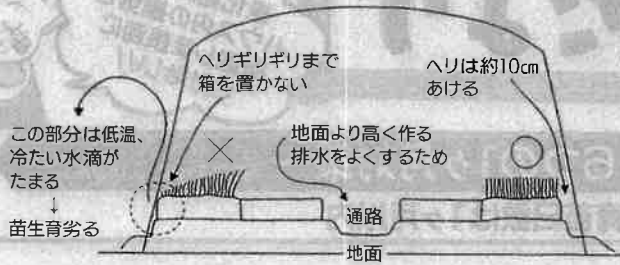
コシヒカリの早播き、早植えは、品質低下のもとです。4月上旬に播種し、5月田植えを実施しましょう!

苗の品種区別をしつかり行いましょう!

搬入後	温度管理		水管理	
	温度計は苗の高さに設置!		天候に応じた水管理!	
緑化期 1～4日 苗丈3cm	<p><b>昼間20～25℃ 夜間15～20℃</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高温 (26℃以上) にならないように換気する。</li> <li>●夜温確保のため、午後3時頃までにハウスを閉める。</li> <li>●保温性が高い被覆資材を使用する場合はヤクに十分注意する。</li> </ul> <p>※ゆめみづほは緑化期間を十分にとり、日数ではなく苗丈2.5cmになったことを確認してから被覆資材を取るようにする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●原則灌水は行わない。晴天が続く場合は土の状態をみて灌水する。</li> <li>●灌水が多いと過湿状態が続くため、床土の温度が上がらず生育が遅れる。又、カビの発生にもつながる。</li> </ul> <p>※本店育苗センター出芽苗については、蒸気で加湿し十分に水分を含んでいるため、<u>原則ハウス搬入時に灌水の必要はありません。</u></p>	
硬化前期 5～20日 葉齢1～1.5	<p><b>昼間15～20℃ 夜間10～15℃</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●極端な低温時や強風時以外の日中は、ハウスを開け換気に努める。</li> <li>●午後3～4時頃にはハウスを閉め、保温に努める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●灌水は原則として午前中1回とし、箱の底まで水が浸透するよう十分に行う。(雨や曇りの日は灌水を控える)</li> <li>●晴天時に床土が乾燥し、2回目の灌水が必要な場合は、午後3時までに行う。</li> <li>●この時期の過湿は生育ムラにつながります。(苗の短い箇所は、カビの発生や根張り不足、軟弱化の原因になります。)</li> </ul>	
硬化後期 21～25日 葉齢2～2.5	<p><b>原則外気温</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●昼夜問わずハウスのビニールをめくり、日中の温度が上がりすぎるときはハウスの腰部も開け、換気する。</li> </ul> <p>※強風や霜などには注意する。</p>		<p>※毎朝たっぷり1回灌水する。苗箱のフチは乾きやすく、灌水ムラがでやすいので十分灌水する。2回目以降の灌水が必要な場合は午後3時までに済ませる。</p>	

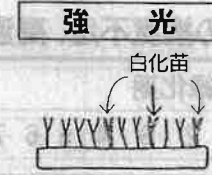
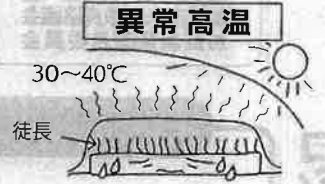
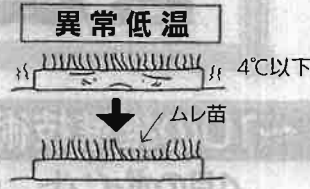
老化苗にさせない！(植え傷みの原因となり、収量・品質の低下につながります。)

## 苗箱の置き方のポイント



※ハウス内での地面がガタガタだと、生育ムラができるのでハウスの中は均平にする。

## 緑化期の障害の例



※温度が低すぎても高すぎてもよくないので温度管理に十分気をつける。

## カビ及びムレ苗対策

対象病害	原因	薬剤名	使用期間	処理方法
白・青カビ	育苗初期によく見られ、高温・過湿条件で発生。	ダコレート水和剤	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	500倍液(水100ℓに200g)を1箱当たり 500ml灌注する。総使用回数:2回以内
赤カビ	高温条件で発生。	タチガレエースM液剤	は種時又は発芽後	500倍液(水100ℓに200ml)を1箱当たり 500ml灌注する。総使用回数:1回以内
ムレ苗	急激な温度変化による生理障害。	タチガレエースM液剤	は種時又は発芽後	500倍液(水100ℓに200ml)を1箱当たり 500ml灌注する。総使用回数:1回以内

育苗日数が長く葉色がさめてきた苗には、液肥10号200倍液(水10ℓに50ml)を田植え3日前～前日に500ml/箱を2回灌注する。灌注後は、葉焼け防止のため軽く灌水する。

## 本田の準備 ～とても重要な代かき作業～

①圃場の均平	代かきによる圃場の田面の高低差をなくすことにより、雑草を生えさせない効果があり、田面の低いところは均平にすることによって生育ムラをなくしたり、薬害を生じさせない効果がある。
②土壌の硬度	田植作業の能率と精度を上げることに繋がる。 代かきは浅水で行い、ねりすぎないようにするとよい。
③河川汚濁・プラスチック被覆殻流出防止に配慮	代かき中や、代かき後に濁り水を落水しない。 プラスチック被覆殻を流出させない。

代かき時の濁水・プラスチック被覆殻は  
河川へ流入させない!!

